

大阪国税局長賞

図書館という贈り物

京都市立京都御池中学校9年

福田 汐理

私が本と出会ったのは、まだ小さなころのことです。忙しい母は、どんなに疲れていても毎晩欠かさず本を読み聞かせてくれました。その時間は、私にとって特別なものでした。小学校に上がる前までに母が読んでくれた本の数は、なんと約4万冊。あとでそのことを知り、自分でも信じられないほど驚きました。けれど母は、「特別なことはしていないよ。」と笑って言いました。こまめに図書館に通って本を借り続けただけだそうです。ときには紙芝居や大型絵本も借りてきてくれて、家で小さな読み聞かせ会のような時間も作ってくれました。本の世界に夢中になった私は、自然と本が大好きになっていきました。

なぜ母はそこまでしてくれたのでしょうか。理由を尋ねると、「京都は日本で初めて図書館ができた場所で、そのことに感謝しているからだよ。」と教えてくれました。町の歴史への感謝から、図書館の恩恵を受けて育った私。読書の習慣は、やがて学ぶことの楽しさへとつながっていました。

ある時、私は1年間で自分が借りた本の定価の合計を知りたくなりました。結果は、なんと約150万円分。驚いたのと同時に、どうしてこれだけの本が無料で読めるのか疑問に思い、図書館の仕組みについて調べてみることにしました。

すると、図書館の本の購入費や運営費、職員の給料、建物の維持費まですべてが税金で支えられていることが分かりました。つまり、私が自由に本を読み、安心して学んでいるのは、社会のみんなが納めている税金のおかげだったのです。

図書館は、誰もが平等に学びにアクセスできる場所です。経済的な事情で塾に通えない子も、図書館があれば学ぶ機会を得られます。税金によって支えられている図書館は、学びの格差を小さくするために、なくてはならない存在だと感じました。

税金の使い道は、医療、福祉、防災、教育など多岐にわたります。今後、人口が減り税収も減るなかで、お金の使い方はより慎重に考えなければなりません。「図書館より大事なことがある」と考える人もいるでしょう。確かに、命や生活を守るための費用は欠かせません。

それでも私は、図書館のように心を育てる場所にも、税金が使われてほしいと願っています。本によって育まれる想像力や思考力は、生きる力の一部です。図書館のお陰で出会った言葉や知識が、今の私を形づくってくれたのです。

私は、税金で支えられている図書館に深く感謝しています。そしてこれから多くの本を読み、心を豊かにしていきたいと思います。それは、いつか誰かの役に立つ力になると信じているからです。図書館で学んだことを胸に、社会で貢献できる大人を目指していきたいです。